

京滋私大教連

CONTENTS

- 1頁 「全国代表者会議」に参加して
- 2頁 学費と奨学金を考える龍谷大学みんなの会を発足
- 3頁 【連載企画】学生の学びと教育のあり方を考える①
- 4~5頁 大学教職員の適正な労働時間把握と近年の労働関係法令等の動向(後編)
- 8頁 企画案内・活動スケジュール

2017.7.20 No.234

発行 京滋地区私立大学 教職員組合連合 〒602-8469 京都市上京区中筋通浄福寺西入中宮町311
TEL 075 (415) 1092 FAX 075 (415) 1093
E-mail : kfpu@ari.bekkoame.ne.jp URL: http://www.bekkoame.ne.jp/~kfpu

6ページ

財政分析の実践的取り組み — 京都産業大学と龍谷大学との比較検証 — (後編)

学園・大学の民主化の重要性

— 日本私大教連主催「全国代表者会議」に参加して —

京滋私大教連副執行委員長 山下 高行

◆各地区の春闘状況を 交流

さる七月二日、全国代表者会議が開催された。会議では、春闘真つただ中にある各地区の取り組みと、今後に向けての焦点となるポイントについての報告と議論が行なわれた。いずれの報告も各地の旺盛な取り組みを反映した熱のこもったものであったが、紙面の関係上、今後京滋地区でも深めていくべき論点を中心に若干の雑感を交え報告したい。会議では、各地区の春闘状況の報告とともに、「大学民主化の闘い」(北海道)、「組織拡大・組織強化の取り組み」(東海)、「私大助成運動推進の取り組み」(関西)、「軍学共同反対の取り組み」(東京)に関する提案と意見交換が行

なわれた。

藤田書記長は議論のまとめと今後の取り組みに関して、主に以下の四つの点に言及した。第一に、厳しい春闘状況の中でも、各地区で何らかの前進面が見られることである。この間、基本給の切り下げや一時金カットなどが続く中、「もうこれ以上の切り下げは無理だ」という状況が生み出されており、それがバネとなって攻勢的な取り組みが展開されている。特に、私大教連が取り組みを強める「財政分析」を軸にした闘いが前進を生み出している。

第二に、**私学特有の問題として、とりわけ創業者支配などに代表されるガバナンスの問題は相変わらず大きな闘争課題となっており、理事会側の専門家(弁護士など)によ**

る特有のネットワークがそれを押し進めている兆候が見られるため、一つひとつの権利侵害に対して徹底して闘うとともに、教育・研究を含めた学園全体の民主的な雰囲気醸成が依然として重要である。

第三に、関西地域の公費助成運動で教訓化されているように、学園内外の地区労や高校教組などあらゆる組織との連帯を強める必要があること、第四に今日の憲法「改正」論議は、日本の民主主義の危機につながる重大な問題であり、大学で働く意味を明らかにする中で、各地区・各学園での議論をいっそう深めることが呼びかけられた。

◆学園・大学の民主化の重要性

多くの私学で、ガバナンス

の問題が依然として民主的な大学づくりを妨げる最も重大な問題になっていることを踏まえ、日本私大教連は「私立学校法改正案」を提起している。

一八歳人口が急減する「二〇一八年問題」を迎える中、理事会によるトップダウンの運営がますます顕現化している。見通しのない無責任な新学部設置や、職域の差別的なライン化、非正規雇用の拡大が進んでいる状況が各地区の報告からも伺うことができた。その意味でも「学園の民主化」とそれに向かつての取り組みは、相変わらず「古くて新しい」重要な問題であると考えるだろう。